

小林人  
こばやしびと  
Vol.31



2 楽しみながら和太鼓を叩く、敦矢くん。楽器にふれることで、音楽の見識も広がっている  
3 小淵さんの弾く三味線に合わせて練習する敦矢くん。慶将くんは「おはやし」という合いの手をいれ、歌を盛り上げる

「楽しい」は無量大の可能性を秘める

細野にある民謡教室、洲春会。その教室に大人顔負けの歌声が響き渡っている。歌うのは、弓削杏実さん、敦矢くん。7月21日に江戸東京博物館で開催された青少年みんよう全国大会で、中学生の部と小学生高学年の部で共に3位となった実力者だ。

大揺れなどの技を用いながら抑揚をつけ、情景や感情を表現し、聞き手に伝える。杏実さんは、こぶしや大揺れなどを駆使する技術力の高さ、敦矢くんは、小さい体からは想像できない声量とそれを持続させる持久力が強み。正反對の特徴を持つ2人だが、共通するのは物怖じしない舞台度胸。年間50〜60回の舞台に出演し、多いときは文化会館を埋め尽くす人の前でもなんなく歌う。姉弟はそれぞれ「スポーツライトを浴びるのは気持ち



1「シャンシャン馬道中」を歌う、杏実さん。お母さんは「ひいおばあちゃんが子どもたちの歌を聞くと元気になる」と語る

いいよね、「僕は夏祭りの楽しい雰囲気が好きかな」と笑顔で話す。歌声はもちろん、その怖いもの知らずな勢いは、とどまることを知らない。姉弟が民謡を始めたのは6年前。喘息を持つ敦矢くんの肺を鍛えようと母親が勧めたのがきっかけ。杏実さんは、弟の影響でその3ヶ月後に始めた。しかし、民謡を歌う同世代の友達も少なく、楽しくなくなり、2人ともやめてしまったときもあった。それでも、民謡が大好きな2人。「上手になりたい」という強い思いから、3年

前に洲春会の門を叩いた。先生である小淵洲千春（北ノ蘭千春）さんは、本人も全国大会優勝の経験があり多数の全国入賞者を育ててきた指導者。2人は「先生の言うことを聞けば上手くなれる」と信じ、日々練習している。そんな、姉と兄の姿に憧れ二男の慶将くんも昨年の冬から始めた。小淵さんは「大会でも舞台のように笑顔で楽しく歌えれば、もっと上位も狙える」と課題を語る。「目指すは全国優勝」。大好きな民謡を楽しむ姉弟の可能性は無量大だ。

栗須小学校4年

よしまさ 慶将くん

野尻中学校2年

ゆげ・あずみ 弓削杏実さん

栗須小学校6年

あつや 敦矢くん

民謡3姉弟

青少年みんよう全国大会で3位になった姉弟「楽しさ」が教えてくれる「がんばる」ということ